

設立の理念

1. 障害のある人が社会の中で働くことの実現

障害のある人が能力を最大限に生かし、当り前に「普通の職場」で働くことができる社会の実現を目指します。

2. 実践的なネットワークの構築

その目的を達成するため、企業、障害のある人、福祉、労働、教育、医療等の垣根を越えた「実践的ネットワーク」を作ります。

3. 就労支援の人材養成

スピリットを持ち、方法と技術を身に付けた、地域で就労支援を担う人材を養成します。

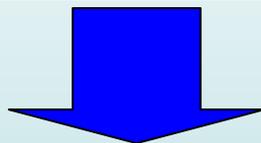
理事長：小川浩(大妻女子大学)、副理事長：志賀利一(電機神奈川福祉センター)

理事：福田年之(朝日新聞厚生文化事業団)、小松邦明(杉並区障害者雇用支援事業団)、酒井大介(社会福祉法人加島友愛会)、西村浩二(社会福祉法人つづじ)

正会員：約300人

社会福祉法人横浜やまびこの里・仲町台センターにおけるジョブコーチの人材養成。(1998~2005)

- 8年間で約1900人が基礎講座、450人が実践セミナーを受講。
- プログラム・ソフトが開発される共に、修了生の中から講師・トレーナーの人材が輩出された。
- 修了生を中心に各地で地方セミナーが立ち上がる。



NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク
(2006~)

職場適応援助者養成研修の外部研修機関の開始を契機に、それまでの任意組織からNPO法人化。

社会福祉法人横浜やまびこの里 仲町台センターにおける人材養成

8年間で約1900人が基礎講座、450人が実践セミナー、1600人が事例フォーラムを受講。

1998年より仲町台センターでジョブコーチの人材養成を開始。左記のように発展し、JC-NET設立の基礎が作られた。

年	基礎	実践	事例フォーラム	その他
1998年		46人		
1999年	178人	40人		
2000年	258人	42人	190人	
2001年	387人	44人	371人	649人 (日米)
2002年	273人	90人	445人	
2003年	340人	60人	583人	
2004年	246人	60人	JC-NET会議へ 発展	
2005年	225人	60人	JC-NET会議へ 発展	
合計	1907人	442人	1589人	649人

<基礎講座>

講義による1日での基礎講座(100~200人規模)

<実践セミナー>

6人1グループによる演習中心の参加型実践セミナー(20~60人規模)

<事例フォーラム>

実践発表中心でJC-NET会議の前身(400~500人規模)

障害のある人が、能力を最大限に発揮し、普通の職場で働ける社会の実現を目指し、就労支援の情報発信、ネットワーク作り、人材養成を行う組織です。

4つの事業

ウェブ

インターネット上で
ジョブコーチや就労
支援に関わる様々
な情報を発信

<http://www.jc-net.jp/>

普及・啓発

全国からジョコー
チが集合する
ジョブコーチ・ネッ
トワーク会議

地方での就労支
援を盛り立てる
ジョブコーチ・ネッ
トワークフォーラム

地方セミナー

ジョブコーチの普
及・啓発と基礎的
な人材養成を目的
として全国各地で
ジョブコーチセミ
ナーを開催

JC養成研修

厚生労働省認定
の「第1号・第2号
職場適応援助者
養成研修」として
JC-NETジョブコー
チ養成セミナーを
開催。
東京で2回
地方で1回

ジョブコーチ・ネットワーク-ジョブコーチ人材養成の講師・トレーナーの様々なノウハウや実践のアイデアの公表と、全国各地のジョブコーチ・障害...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス(D) https://www.jc-net.jp/ 移動 Norton AntiVirus



ジョブコーチ・ネットワーク

会員No.2

- 入力・編集
- ログアウト
- 使用方法
- 新着コメント 0件

[ご挨拶](#) | [JC-NETとは](#) | [実行委員一覧](#) | [記事一覧](#) | [テキスト版](#) | [活動予定](#) | [これまでの活動](#) | [リンク集](#) | [サイトマップ](#)

新規会員登録

会員になると、添付ファイルダウンロードならびにコメント書込みができます。

ジョブコーチとは・・・

障害のある人が社会の中で働くことの実現を目指す就労支援の新たな理念と方法を表す言葉です。

「ジョブコーチ」と呼ばれる支援者が、障害のある人が働く職場の中で、障害のある人と企業の双方をサポートすることが特徴です。我が国では、平成14年に厚生労働省が「職場適応援助者(ジョブコーチ)事業」を制度化し、その他、地方自治体においてもジョブコーチの方法を取り入れた就労支援事業が増えています。

現在、ジョブコーチに公的な資格制度はありません。その方法や技術は、実践の中で形成され、修正されてきています。1つの完成形があるのではなく、先ず就労支援の実践があり、実際のニーズに応じて編み出され、体系化されていくのが「ジョブコーチ」であると考えています。



小川 浩

大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科・助教、社会福祉法人横浜やまびこの里・仲町台センター

JC-NET会議 東京・上智大学 四ツ谷キャンパス

集合!!日本のジョブコーチたち!!!

3/11 3/12

最新ジョブコーチトピックス

ジョブコーチ・ネットワーク会議1日目終了 (志賀 利一:06/03/11)



年に一度、全国のジョブコーチが集結する、ジョブコーチ・ネットワーク会議が上智大学四ツ谷校舎で今年も開催されました。昨年同様、今年も500人近くの人が集まり、参加者の熱気が感じられる会議になっています。一日目は、基調講演が2本とワークショップ(3会場に分かれて)のプログラムです。精神障害者雇用の課題、企業からみた就労支援機関との連携、施設からの就労支援、地域のネットワーク作りなど、最近のトピックス

お知らせ情報

本サイトののお知らせ情報を掲載

JC-NET会議 ポスター発表募集要項

3月のジョブコーチ・ネットワーク会議で、ポスター発表をして下さる方を募集します。昨年も、ポスター発表の会場は、すごい盛り上がりでした。大きな成果の実践でなくても結構です。きちんと整理された発表・・・

- (予告)Web委員を設置します
- 【注意!】会費納入の確認
- 平成17年度会員募集開始
- 古い記事の検索方法
- ホームページのリニューアルについて
- お知らせ一覧

イベント情報

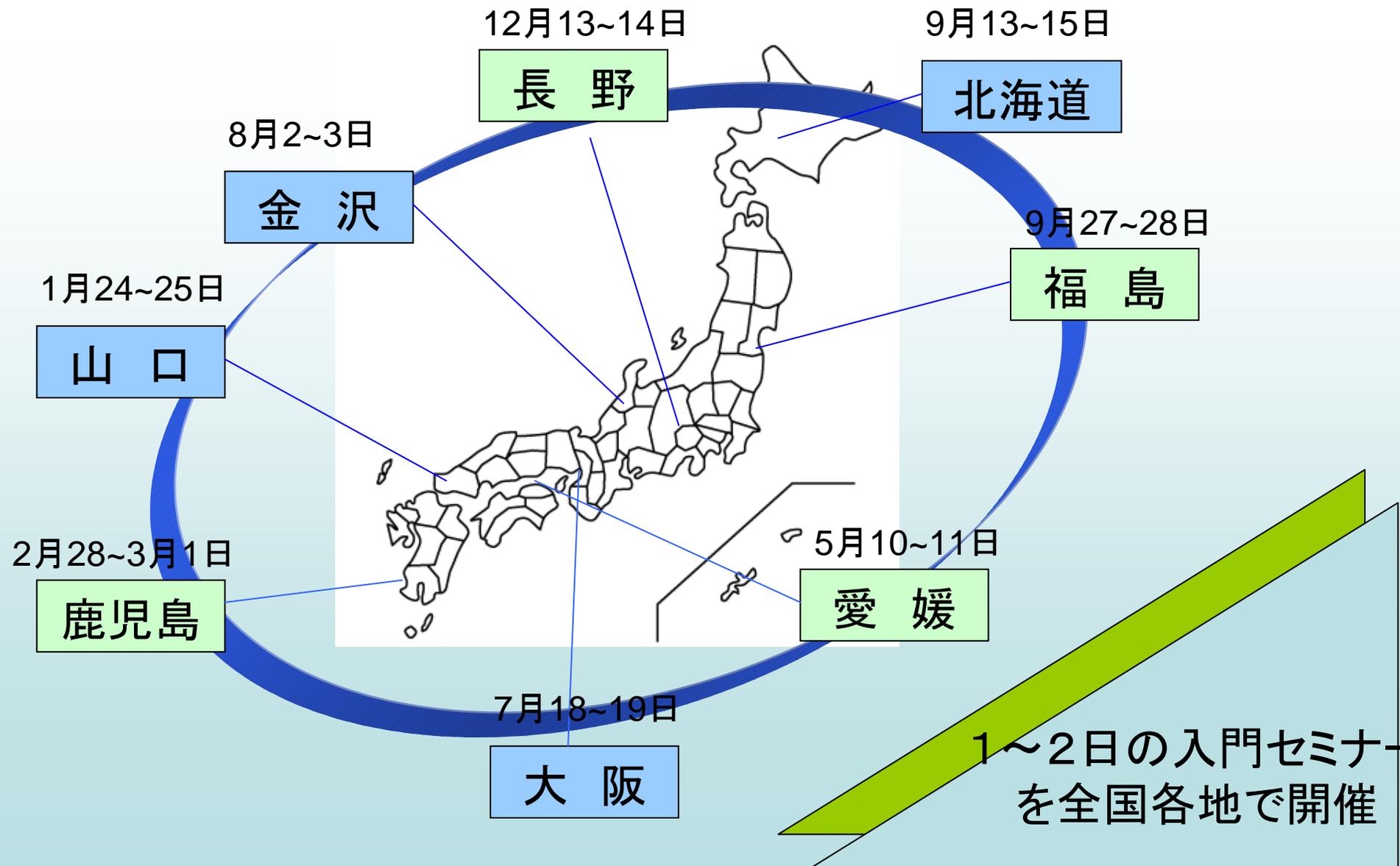
本サイトのイベント情報を掲載

障害者雇用企業見学会

ページが表示されました

インターネット

JC-NETジョブコーチセミナー





第1回東京 (大妻女子大学)

8月21～26日

第2回広島 (広島県社会福祉会館)

10月11～12日

11月1～4日

第3回東京 (大妻女子大学)

2月7～12日

JC-NET
ジョブコーチ養成セミナー
のコンセプト

豊富な演習による実践性

顔の見えるネットワーク

スピリットを伝える

平成20年度のJC-NET会議

- 日時 : 3月14日(土)~15日(日)
- 場所 : 大妻女子大学多摩校舎
- 申し込み : 配布チラシ、JC-NETウェブをご覧ください
- プログラム : ワークショップ、実践発表、ポスター発表等

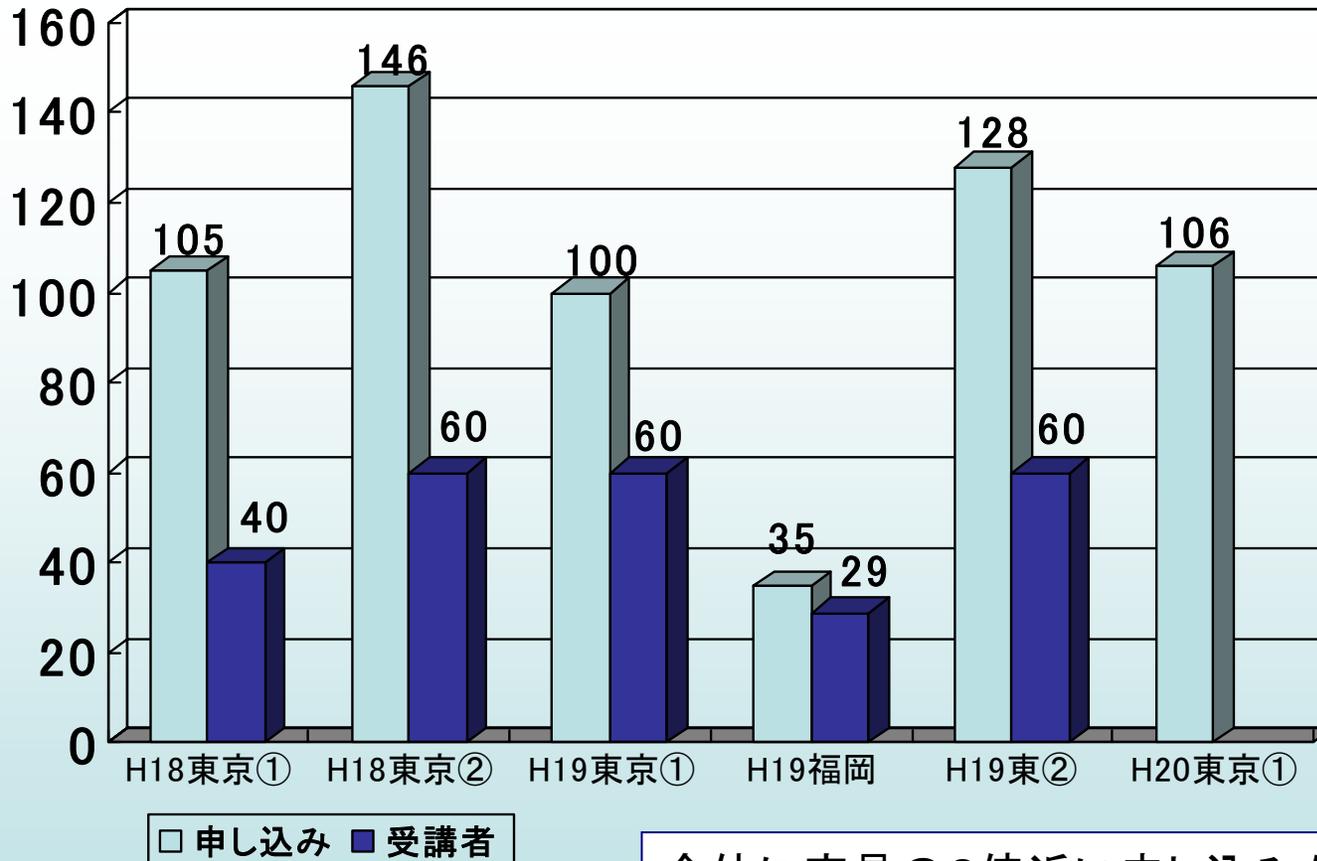


実践的で具体的なテーマが設定された
ワークショップ、実践発表



明日の実践に役立つ情報が得られる
ポスター発表

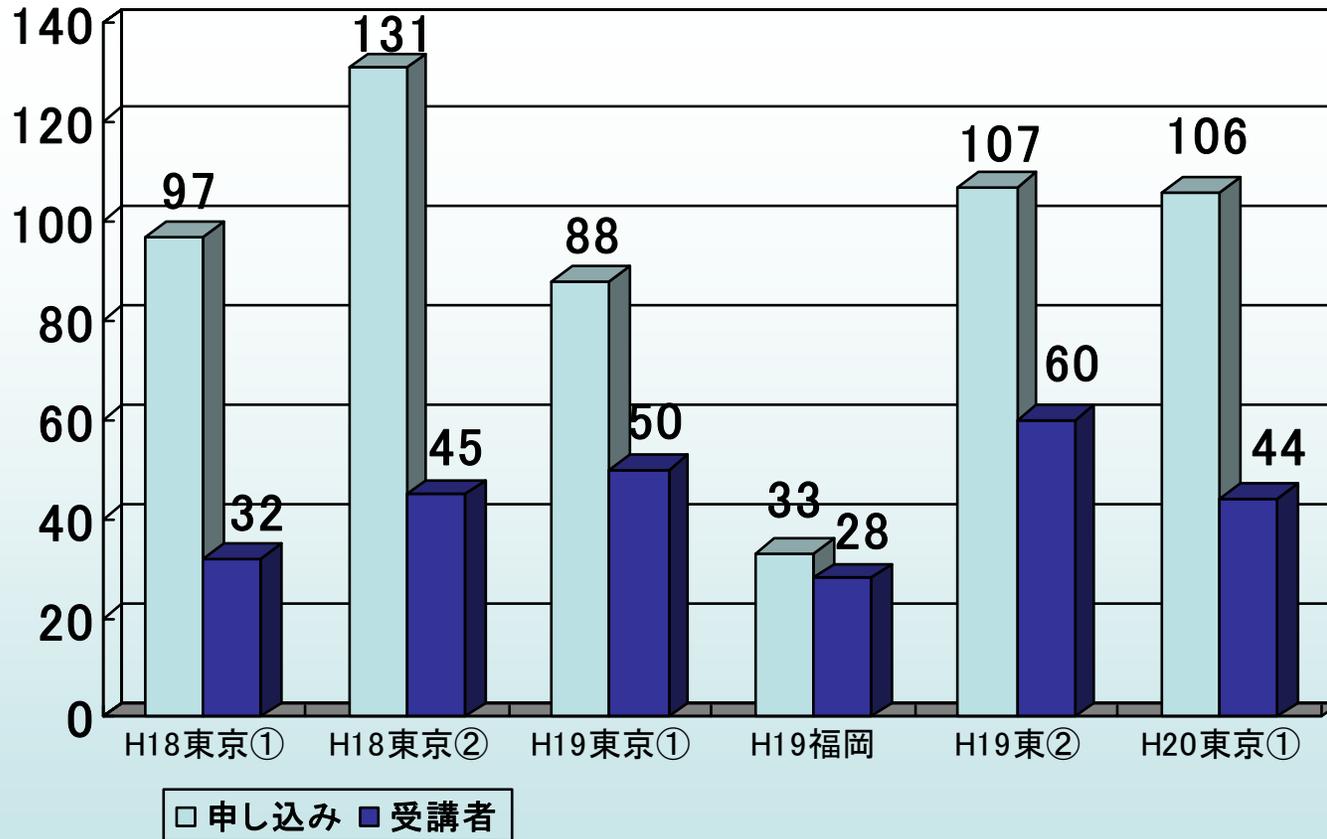
職場適応援助者養成研修 申込者と受講者(第1・2号合計)



全体に定員の2倍近い申し込みがあり、選考により受講者を決定している。

平成19年度に福岡での地方開催を実施。平成20年度も広島で開催の予定。

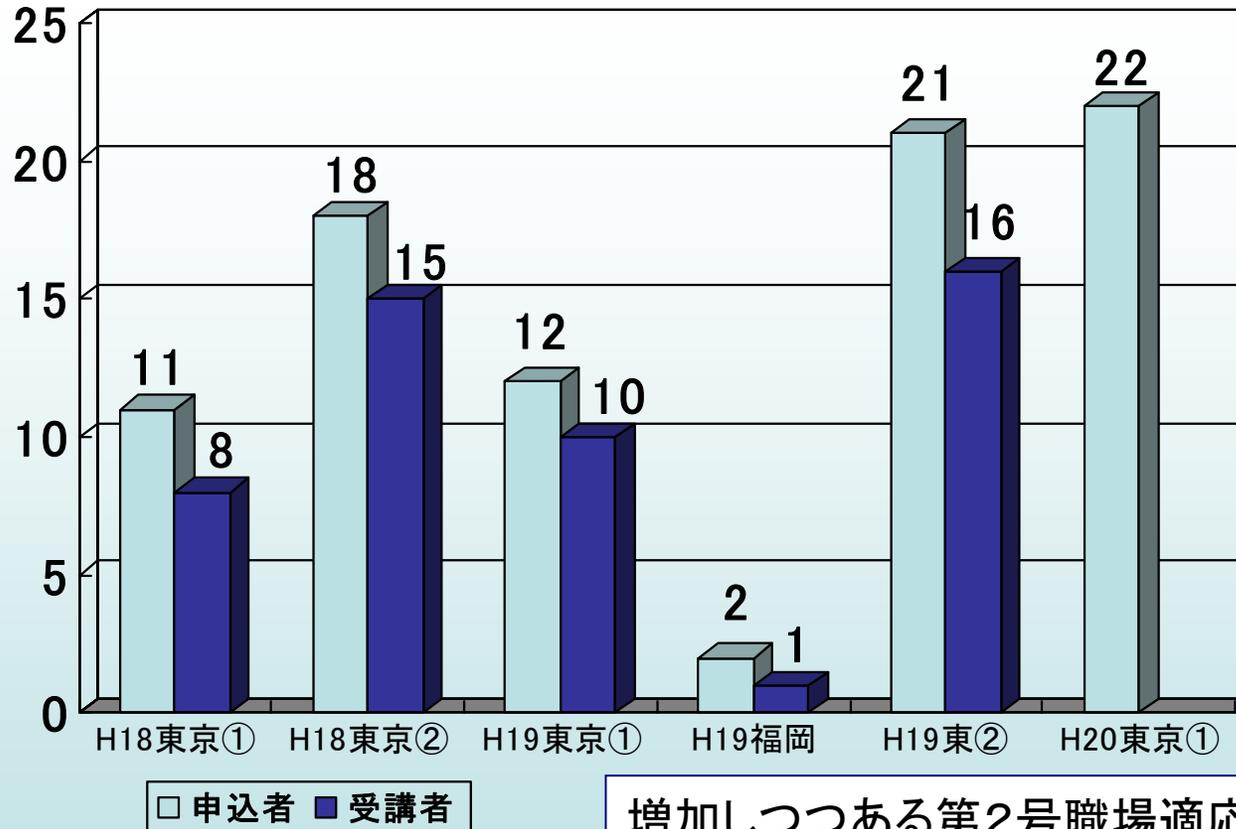
職場適応援助者養成研修 申込者と受講者(第1号)



定員の2倍強の申し込みが続いている。教員、企業退職予定者、助成金活用の予定がない福祉施設職員なども3割程度含まれている。

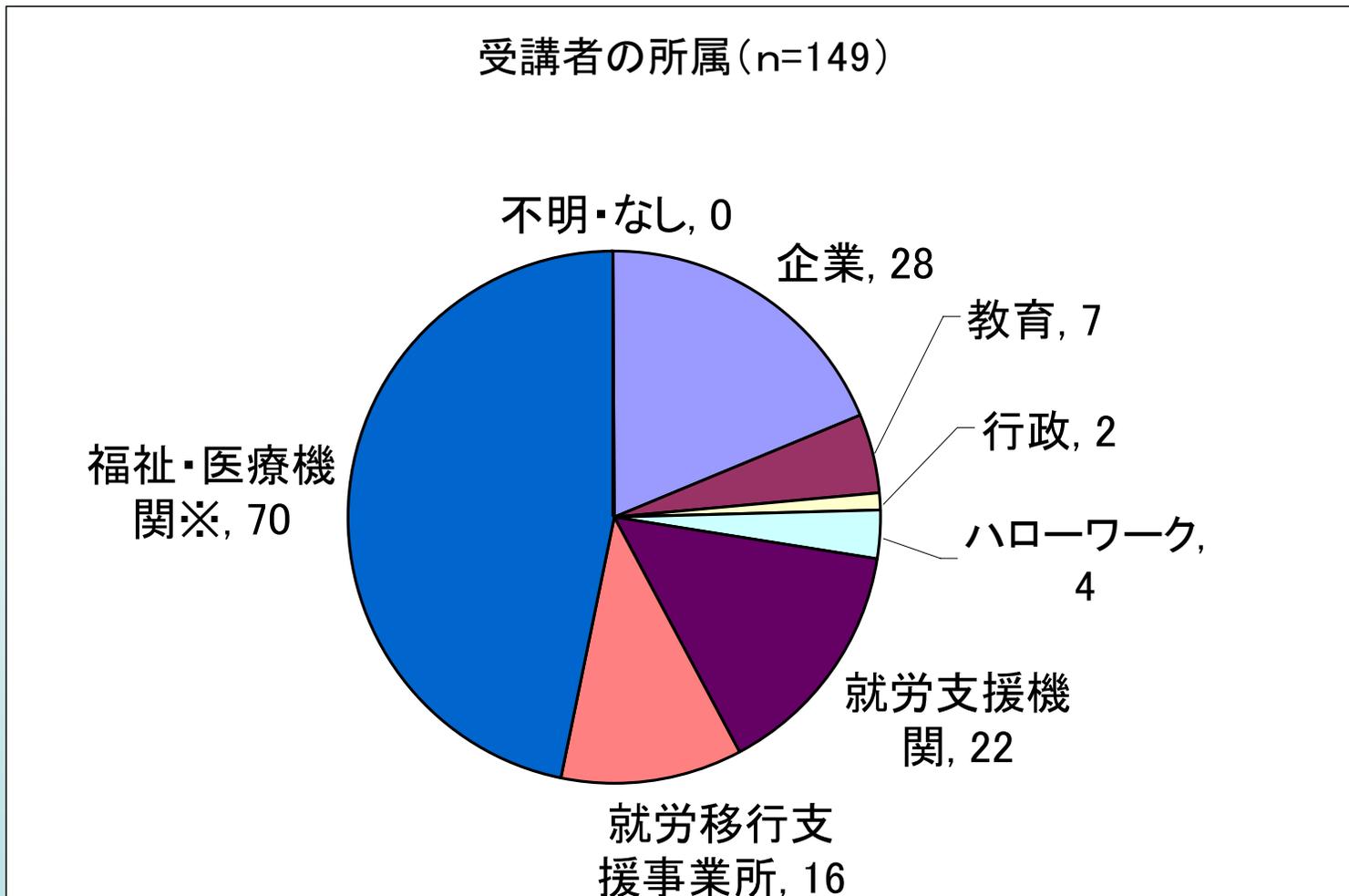
助成金活用の予定があるか、就労移行支援事業の予定のあるが、地域バランス、年齢などを勘案して選考している。

職場適応援助者養成研修 申込者と受講者(第2号)



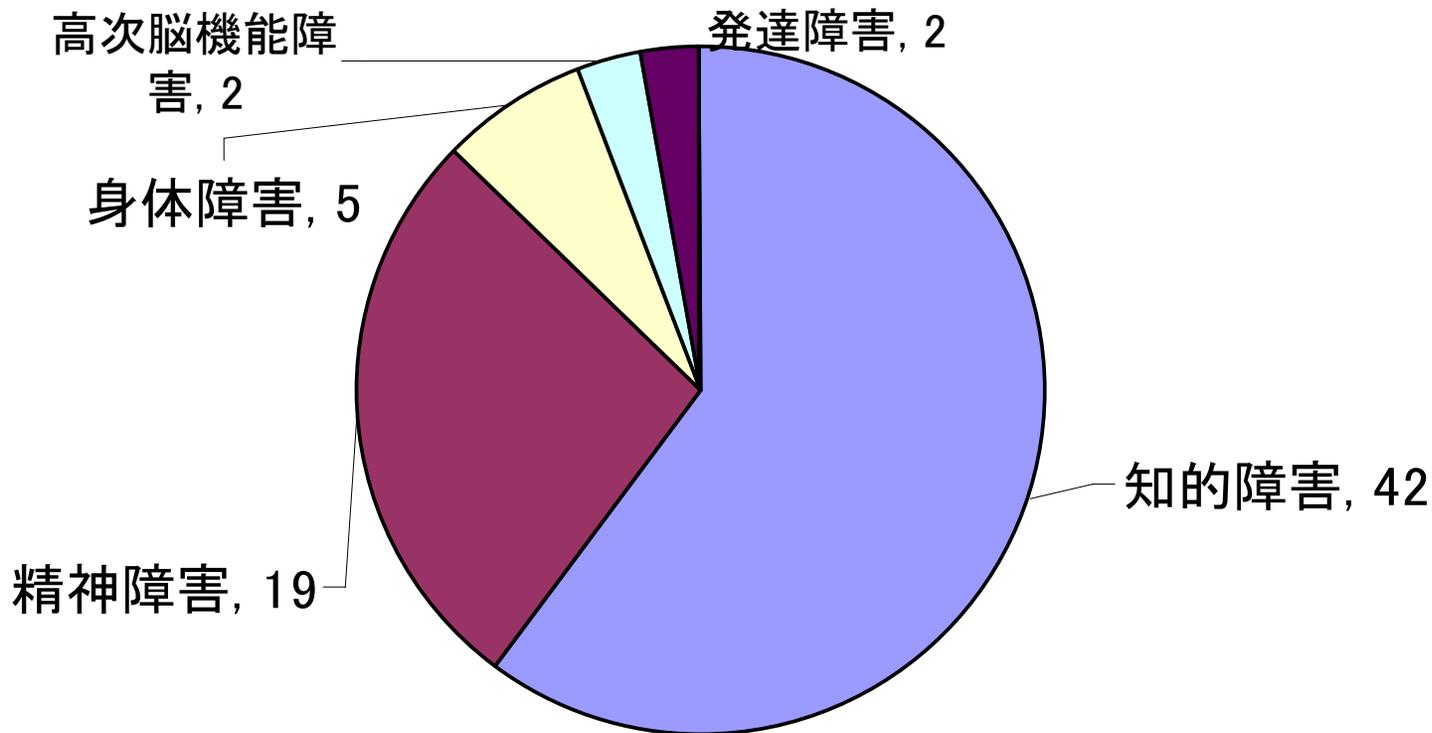
増加しつつある第2号職場適応援助者の研修ニーズ。第2号職場適応援助者助成金の活用予定は不明であるところが多い。助成金の要件というよりも、スキルアップ研修として参加している例が多い。

受講者の内訳(H19年度)

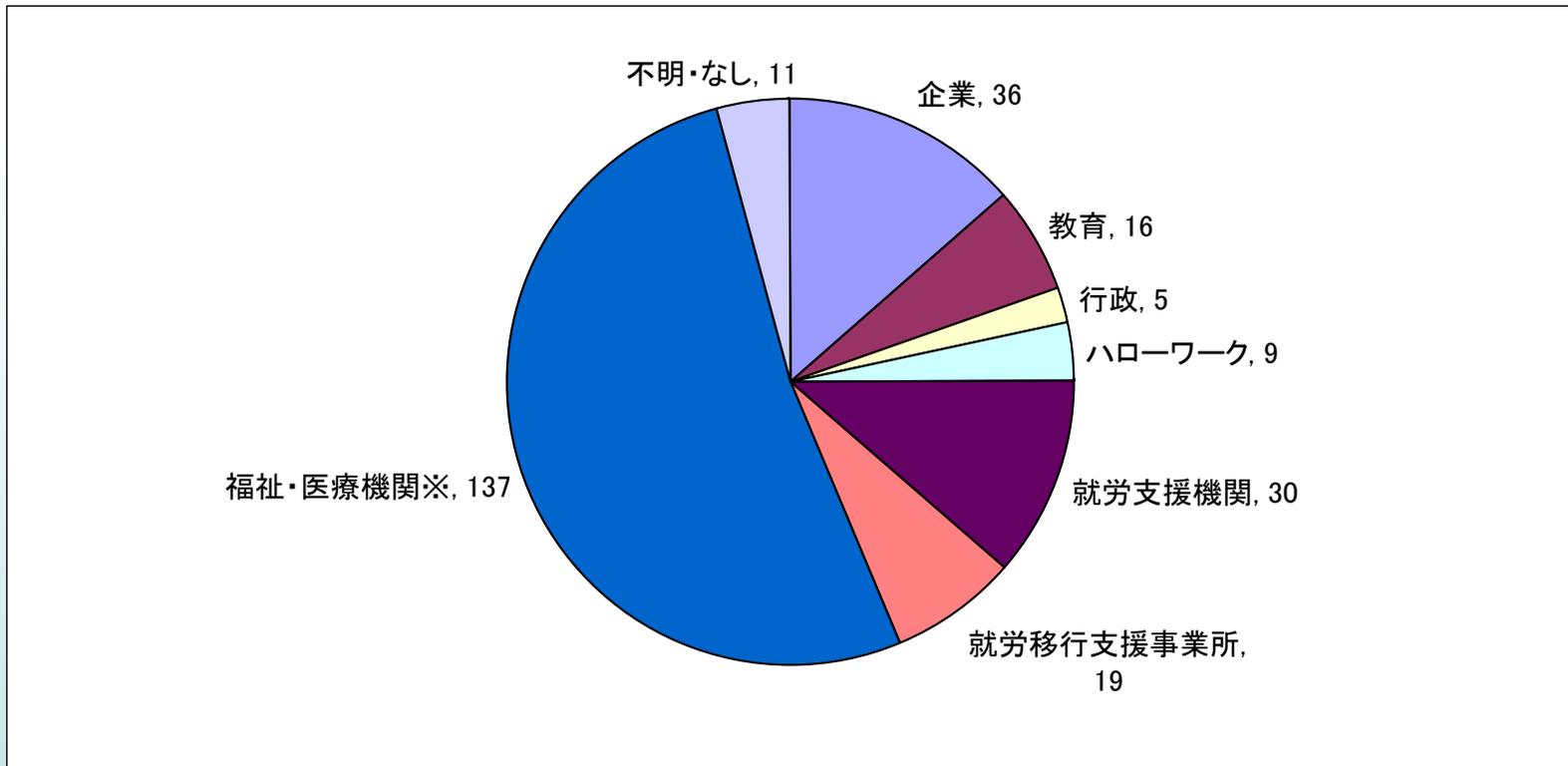


受講者の内訳(H19年度) (福祉医療関係の詳細)

※福祉・医療機関における主な支援対象(n=70)



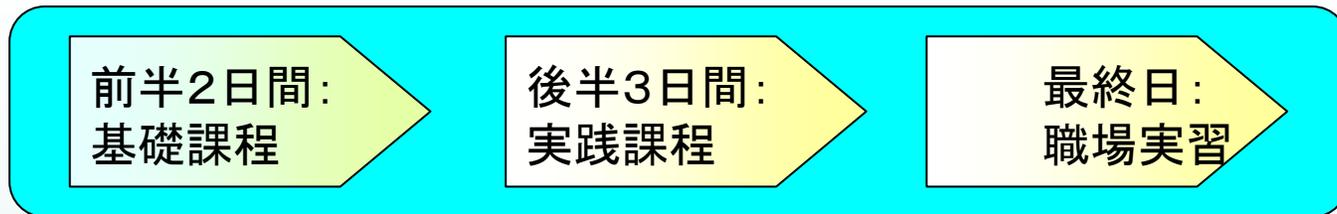
申込者の内訳(H19年度)



今後、数年間は継続して一定の研修ニーズがあるだろう。実践的な就労支援の人材養成としての研修ニーズを職場適応援助者養成研修がどこまで受け止めるべきかは、難しい問題である。

プログラム

- 3つのステージからプログラムを構成してにている。



- 実践課程は、「講義」と「演習」を通して実践的学習を行う。支援プロセスに沿って方法論と技術を習得する。

- ① 障害のある人のアセスメントとプランニング
- ② 職場開拓とインフォームドコンセント
- ③ 職場のアセスメントと職務再構成
- ④ ナチュラルサポートの形成
- ⑤ システマティック・インストラクション
- ⑥ 作業指示書や道具等の活用
- ⑦ フォローアップ

障害のある人のアセスメントの演習



分かりやすく教える技術の演習



作業指示書やジグ作りの演習



ナチュラルサポートの演習



顔と顔の見えるネットワーク



カリキュラム上の課題

- 1号と2号の共通カリキュラムを最大限活用する。
 - 別カリキュラムだと2号が少ない場合、運営が難しい。
 - 1号と2号が同じ研修を受けることで相互理解が進む。
 - 1号と2号でもほとんど基本は同じである。
- 講義指定科目についても、演習やグループディスカッション等の方法を最大限活用する。
 - 一定の実務経験がある受講者にとって講義だけの研修は苦痛である。
 - 基礎的な講義の後に、事例を通してディスカッションをするなどの方法の方が、学習効果が上がりやすい。

今後に向けての課題(1)

- 1号ジョブコーチについては、狭義のジョブコーチとしての研修なのか、広義のジョブコーチとしての研修なのか、コンセプトの整理が必要。
- 2号ジョブコーチについても、特例子会社や重度障害者多数雇用事業所等の管理職レベルを対象としているのか、実際に障害のある従業員の職務指導を担当する現場職員を対象としているのか、2号ジョブコーチのコンセプトについて整理が必要。
- 実際には、明確な整理は難しい部分もあるが、1号については協力機関型ジョブコーチを対象としたプログラムの色合いが強く、より広範囲な専門性を含む必要があるだろう。

今後に向けての課題(2)

- 助成金要件の研修というより、就労支援担当者、又は障害者雇用担当者の実践的な研修と割り切って考えている受講者も少なくない。
- 助成金の資格要件というより、「国のジョブコーチ資格」という勘違いもある。
- より長期で中身の濃い研修を期待する声もあるが、現職研修としては、6日間以上長期に渡る研修は受講が困難であろう。
- より専門的な就労支援専門職員の研修には、最低でも200時間程度の時間数が必要と思われる。
- 科目やシラバスの検討も重要ではあるが、豊富な実践経験を基礎に、スピリットを持って教えることの出来る人材なくして、良い研修はあり得ない。

JC-NETとしての今後

- 従来からJC-NETジョブコーチセミナーを開催している地方組織が、厚生労働大臣指定を受け、JC-NETと連携して研修を実施できるように努力していきたい。
- 職場適応援助者養成研修とは別に、就労移行支援事業担当者のための研修を今年度試行的に実施する予定(9月13～15日、札幌)。定例化するかどうかは未定。
- 基礎的、入門的な就労支援の普及啓発セミナーの実施も重要と考えている。
- ジョブコーチを多く養成することが、障害のある人や企業にとってメリットのある成果につながるかは疑問である。ジョブコーチの本質的な意味と役割を理解し、適切な講師を擁した組織が、適切な規模でジョブコーチを養成していくことが望ましい。

就労支援の人材養成について

- 就労支援の人材養成は研修で解決するのか？
- 研修以外に何が必要か？
- 就労支援の人材養成には何年かかるのか？
- これまで福祉分野で就労支援の人材が育たなかったのは何故か？
- 人材養成で先ず何をすべきかなのか？